

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	地域高規格道路 常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道408号 宇都宮高根沢バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	栃木県
起終点	自: 栃木県宇都宮市野高谷町 至: 栃木県塩谷郡高根沢町宝積寺			延長	6.6km
事業概要					
<p>一般国道408号宇都宮高根沢バイパスは、常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する広域道路である。</p> <p>本工区の周辺においては、本県の産業を牽引する鬼怒川左岸地域の工業団地群が立地し、現道及び周辺道路においては、物流や通勤等による慢性的な渋滞が発生している。</p> <p>このため、当該バイパスを整備することにより、本地域の円滑な通行を確保するとともに、地域間の交流・連携の強化や産業活動の支援等を図るものである。</p>					
H21年度事業化		都市計画決定なし		H22年度用地着手	
H24年度工事着手					
全体事業費	約347億円	事業進捗率	約85%	供用済延長	3.8km (完4) 1.5km (暫2)
計画交通量	35,100台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 51/421 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 204/604 億円	基準年
	1.4		事業費: 45 / 413 億円	走行時間短縮便益: 134/478 億円	令和7年
	2.3 [2%]	5.9%	維持管理費: 6.4 / 8.0 億円	走行経費減少便益: 64 / 110 億円	
	2.9 [1%]		更新費: - / - 億円	交通事故減少便益: 6.5 / 17 億円	
	(残事業)	(残事業)	感度分析		
4.0		(事業全体)	(残事業)		
5.6 [2%]	16.4%	交通量	B/C=1.3~1.6(±10%)	交通量	B/C=3.6~4.4(±10%)
6.8 [1%]		事業費	B/C=1.3~1.6(±10%)	事業費	B/C=3.6~4.4(±10%)
		事業期間	B/C=1.4~1.5(±20%)	事業期間	B/C=3.9~4.1(±20%)
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な交流・連携の促進と地域の産業支援 ・渋滞緩和による交通円滑化 ・災害時の救援活動や物資輸送に資する緊急輸送道路としての機能強化 					
関係する地方公共団体等の意見					
・関係市である宇都宮市及び高根沢町から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。					
事業評価監視委員会の意見					
栃木県公共事業評価委員会において審議を経て、事業継続が妥当と判断					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年5月までに本バイパスの一部区間(L=5.3km)が供用開始(暫定2車線) ・令和4年5月に本バイパスの一部区間(L=2.7km)が供用開始(完成4車線) ・令和7年1月に本バイパスの一部区間(L=1.1km)が供用開始(完成4車線) 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地進捗率100%、事業進捗率約85%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
今後は早期完了を目指し、未供用区間の整備及び主要交差点の立体化を含む4車線化工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
<ul style="list-style-type: none"> ・跨線橋の新設にあたり、常設足場を設置することで、ライフサイクルコストの縮減を図る。 ・再生材の利用や建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。 					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)